

「生物多様性つくば戦略（仮称）」の策定に向けた

## 市民ワークショップ実施結果

### 1. 実施目的

生物多様性地域戦略の策定に向け、市民の考える「大切な自然」や、将来のつくば市の自然がこうあってほしいという市民の「思い」や「願い」を把握することを目的とする。

### 2. 名称

講演会&ワークショップ「みんなで将来のつくばの自然について考えよう」

### 3. 実施概要

日時：10月7日（土）13：00～16：30（12：30 開場）

場所：つくば市役所会議室 201 室

参加者数：29 名（市民及び市内への通勤・通学者）

### 4. 当日のプログラム

#### (1) プログラムの構成

ワークショップのプログラムと時間配分は下表に示す通りです。

	プログラム	内 容
1	開会	(1)開会挨拶 (2) 地域戦略の策定、WS の位置付けを説明 (3)本日の進め方を説明
2	講演	「つくば市の生物多様性の特徴とその魅力」（筑波大学 上條隆志教授）
3	グループワーク	(1)グループワーク前提情報・進め方の説明 (2) グループ内で自己紹介 (3)「つくばの“お宝マップ”」作成
	休憩	休憩
	グループワーク (つづき)	(1)グループワークの前提情報の提供 (2)「2050 年 つくば市の生物多様性の姿」検討
4	発表	グループごとに発表（5 分×6 グループ）
5	講評	ワークショップについて講評
6	市民団体の紹介	市民団体の活動紹介（5 分×4 団体）
7	閉会	(1)次年度実施の市民参加型現地講習会の案内 (2)閉会挨拶 (3)参加者アンケートの案内

## (2)プログラムの内容

### ①講演

生物多様性つくば戦略策定懇話会の座長、筑波大学上條隆志教授より「つくば市の生物多様性の特徴とその魅力」と題して、市内の生物調査から得られた最新の知見等について紹介を行った。

参加者がつくば市の生物多様性について学び、またグループワークでの議論の参考となった。



写真：講演の様子

### ②自己紹介

グループ内で自己紹介を行った。参加者は氏名（もしくはニックネーム）とつくば市の在住・通勤等の年数を紹介した。

### ③「つくばの“お宝マップ”」（グループワーク）

つくば市の大切にしたい自然を付箋に書き出す個人ワークを行った。ひとつの意見を一枚の付箋紙に書き出し、個人ワーク終了後は、グループ内で付箋をつくば市の大きな地図上に貼り出しながら意見を共有した。グループごとに大切にしたい自然を地図上で表現したつくば市の“お宝マップ”を作成した。また、席替えを行い他グループとも意見を共有した。

### ④「2050年つくば市の生物多様性の姿」（グループワーク）

“お宝マップ”を見ながら、つくば市のお宝や市内の生物多様性が2050年にどのような姿であってほしいかについて考えた。グループワーク前半と同様に班内で意見を共有しながら、地図上に意見を貼り出しながら、想いや願いの共有を行った。その後、意見のグルーピング等の整理をして発表の準備を行った。



写真：グループワークの様子

### ⑤発表・講評

グループワークの結果を各グループが発表した。

発表後はグループワークの様子も踏まえ、上條教授より講評を行った。

### ⑥市民団体の活動紹介

つくば市や市周辺で活動している市民団体4団体より各5分程度で活動内容や直近に開催予定のイベント等について紹介を行った。



写真：市民団体の活動紹介

## 5. ワークショップ実施結果 ※原則として参加者の記入した原文のまま掲載しております。

---

### (1) グループワークの成果

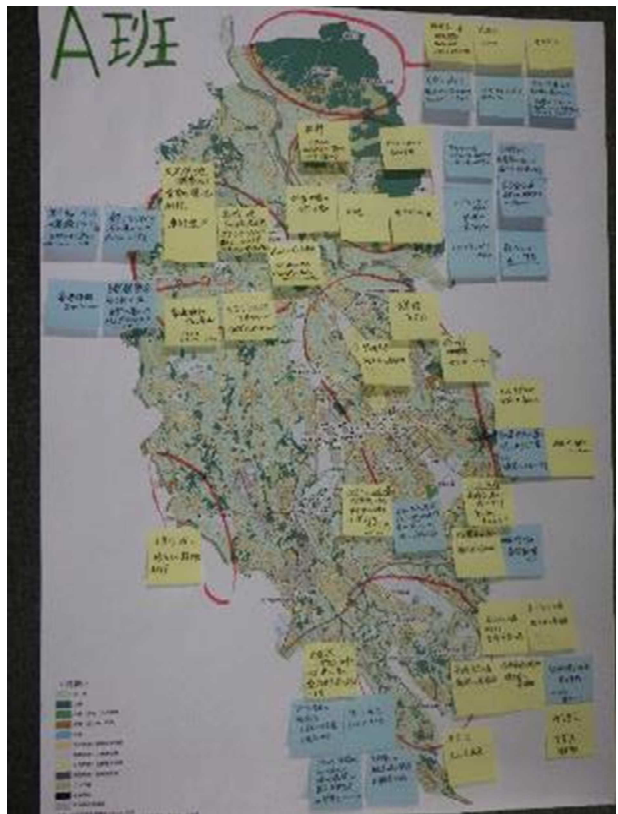
#### ① A 班

#### 「つくばの“お宝マップ”」

生物の生息・生育地情報を含むため地図は非掲載

## 「2050年つくば市の生物多様性の姿」

- ・自然を通じて歴史にも目を向けられたらいいです
- ・ウナギなどが居る沢水を
- ・きれいな湧水を生み出す森づくり 豊かな水に動物に加え植物が集まる 復活する
- ・すそみの田 沢水で稲作中 上流の森の手当を
- ・生物豊かな無農薬の田んぼ耕作が継承される
- ・ハイキングできるよ 筑波山 宝きょう山
- ・学校給食に有機米、有機野菜が使われる
- ・サイクリングできるよ
- ・森づくり推進 里山づくり
- ・ネイチャーゲームの実施（ファミリー等）自然の中で楽しく遊べるといいです
- ・釣りをしながら淡水魚について学べるといいです
- ・蜜源植物ふやしたい
- ・自然観察会 子ども向け、等 自然の豊かさを肌で感じられたらいいです
- ・木の実や木の葉で作ったりして楽しむ 仮装とかもいいです
- ・現在、存在確認できた絶滅危惧種が減っていない 特に洞峰公園
- ・研究所内の自然 散策したい
- ・生物を守りながら共生共存 カワセミ見たい
- ・生物多様性を維持する NPO への支援が強化される
- ・沢に水を 小川に水を
- ・宅地化 市街地化が進んで緑地面積が減る可能性大→影響を minimum
- ・生物豊かな雑木林の管理が継続される



② B 班

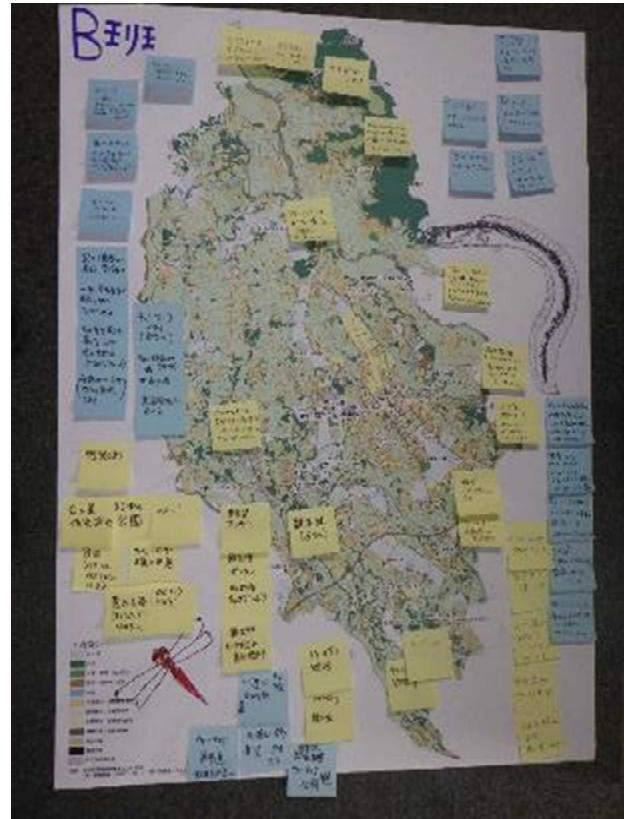
「つくばの“お宝マップ”」

生物の生息・生育地情報を含むため地図は非掲載



## 「2050年つくば市の生物多様性の姿」

- ・ウナギを再育してつくばの産物、特産にする
- ・公民館等で出前ワークショップを行う
- ・市民が共に川や森の管理ができるようにするとよい
- ・空地利用を地域で考える
- ・空き家 etc が公園や自然の森等になると良い
- ・TXが環境を大きく変えませんか
- ・街中でも小学生や中学生が変わらず自然の生き物と触れ合える環境
- ・親の世代でも虫や生き物への苦手意識を解消（寛和）できるような取りくみ
- ・空地の再利用（開拓しない）
- ・窓から自然が見える、感じられる
- ・一歩歩き出すと自然の中へふみこめる
- ・そのまま街を渡って山や沼へ行ける（つながっている）
- ・子供が一人でいける自然もある
- ・ネットワークがある（自然の）
- ・町⇄郊外（田畑）⇄山や沼
- ・東西南北に広がる
- ・里山の手入れ活動が体験教育のメニューとして（技術体験 技術を身につける）位置づけられている
- ・健康づくり 体力づくりのメニューとして里山の手入れ活動が位置づけられているとよい
- ・里山が利用されて手入れされて木が資源として使われてたらいいな
- ・公園などが生物のすみかとしても整備されるといいな
- ・田んぼと川を魚などが行き来できるようにできるといいな
- ・川遊び 大人子ども 谷田川 他
- ・ウォーキング 散歩道 サイクリング道
- ・水遊び 釣り ホソ 子供大人
- ・野草（花） 野鳥観察 ウォーキング 自然公園



③ C 班

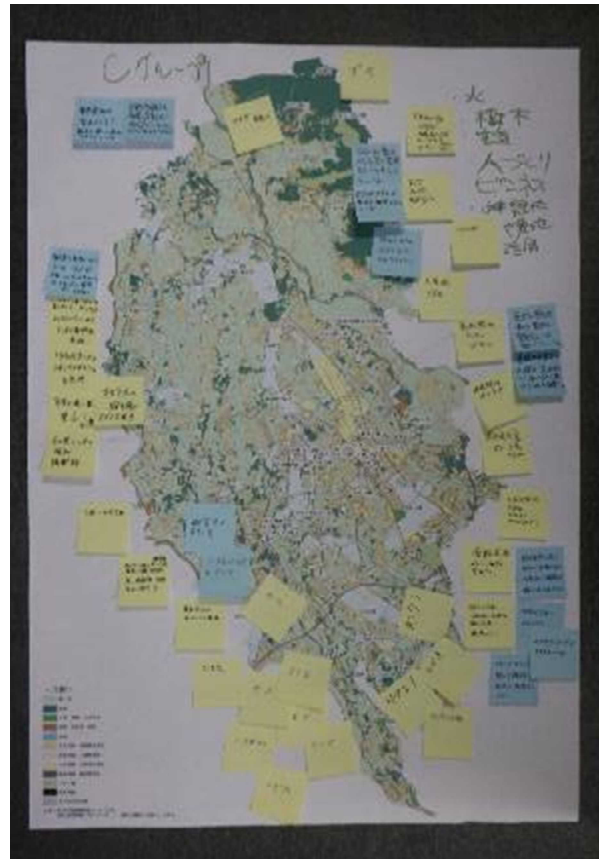
「つくばの“お宝マップ”」

生物の生息・生育地情報を含むため地図は非掲載



## 「2050年つくば市の生物多様性の姿」

- ・市民参加の里山づくり 親子で楽しく参加できたらいいな
- ・生物多様性保全活動が地域ビジネスに（ボランティアではなく）
- ・ホテルが増えるような里山管理をレジャーになるといいな
- ・ホテルやメダカが身近に観察できるといいな
- ・飲めるほどの、泳げるほどの水になるように
- ・樹木をおおいつくしているクズがきれいになるといいな リースやカゴ、ツル活用できるよ
- ・里地の緑地 森や農地の管理する人が増えたらいいな
- ・管理のできない山林を公のものとし手入れを共に入山を気楽に
- ・星空が美しい町
- ・ホテルが飛び交う町
- ・緑被率の高い 生物が多様である 住宅地に価値が認められますように
- ・生物のSAとなるように
- ・ケロケロードができるといいな
- ・住人が手を入れ整える環境維持が浸透するように



④ D 班

「つくばの“お宝マップ”」

生物の生息・生育地情報を含むため地図は非掲載

## 「2050年つくば市の生物多様性の姿」

- ・筑波山 パークセンターがあつてガイドが多くいて関東中から人が訪れ保全と活用
- ・行政 民間会社 研究所は緑地面積↑
- ・研究所等の構内緑地を保全したい
- ・空を見上げる 鳥が飛んでいるのが見える
- ・市民が年に1回は何かの形で生物多様性のためのボランティアをする街
- ・各地域でネイチャーポジティブが取り組み活発化
- ・博物館
- ・すそみが増えていると良いなあ
- ・農地の適度な修理
- ・不法投棄がない
- ・ゴミが落ちていない
- ・里山保全の担い手が増えると良いなあ
- ・現在ある緑地をたいせつにしたい
- ・里山の手入れをリクリエーションにしたい
- ・里山で野外で生き物と遊ぶ子供の姿を見たい
- ・生物多様性フェスタ
- ・生きものを観察する術、地元で学ぶ
- ・川あそびできるところ
- ・街中でも普通にカエルやヒバリ、キジ、ハチが人と同じく子育てをできている
- ・多くの公園で観察会、皆が緑の豊かさを誇りに感じている⇒不動産価値、健康UP
- ・公園やペDESTリアンの自然が今よりも豊かネットワークとして活きている
- ・それぞれの緑を結ぶ通り道を確保したい
- ・街中と古い集落のそれぞれでの楽しい自然とのふれあい方が市民みんなで共有
- ・地元で得られた薪ストーブがふつうであれば
- ・バイオマス熱利用
- ・中心部 車乗り入れ規制されて (LRT 自転車)
- ・街、公園で虫とりができる (バッタ、セミ、カブトムシ、チョウ)
- ・窓から木々、昆虫 (トンボ、チョウ)、鳥が見える
- ・街路樹が増えて日影が増える
- ・穴塚や金田台が学校教育で活用されている
- ・洞峰沼の外来種がいなくなってイシガメが増える 水生植物が戻る
- ・洞峰、二宮のランが増える
- ・すべての子どもが公園の自然とふれあい、自然とサステナビリティについて実体験がある
- ・住宅地をやたらに広げない
- ・あまり人口を増やして欲しくない
- ・博物館が欲しい
- ・子供達が安心して遊べる森があると良いなあ



⑤ E 班

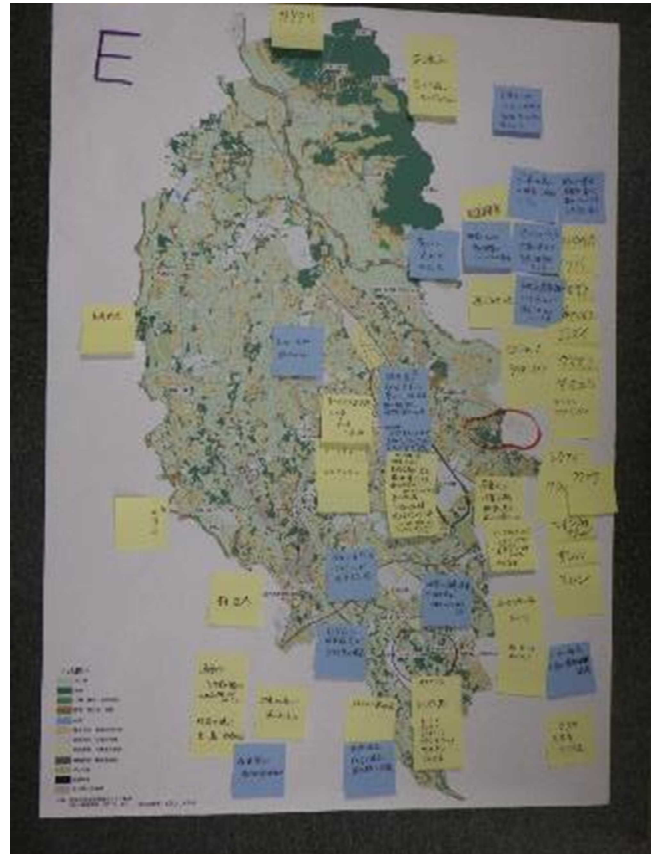
「つくばの“お宝マップ”」

生物の生息・生育地情報を含むため地図は非掲載



## 「2050年つくば市の生物多様性の姿」

- ・子供たちがつくばの自然を勉強する場があると良い
- ・穴塚の里山を保全し続けていこう
- ・里山の保全活動に参加する人をふやすシステム作り
- ・豊かな里山があると良い
- ・田植えなどの里山体験がいつでもできる環境
- ・生きものざくざく穴塚の里山で自然体験しよう
- ・学校の教育活動として里山が活用されるといいです
- ・入っちゃいけない緑地がない
- ・遊歩道沿の植生をもっと豊かに 緑の背骨 桜の植樹 歯欠けの部分をなくす
- ・外来種（ミドリガメ）を捕獲するのではなく、責任をもって保護する施設、体制を整備する
- ・身近に自然を知ることが出来る公園
- ・二の宮～洞峰～赤塚の湿地帯にイオンモールつくばも入る
- ・ようちえん、保育園児が歩ける里山整備
- ・小、中、高生の里山整備体験
- ・在来種が近所で見つけられる
- ・荃崎地区 牛久沼と周辺 里山林の保護



⑥ F 班

「つくばの“お宝マップ”」

生物の生息・生育地情報を含むため地図は非掲載



## 「2050年つくば市の生物多様性の姿」

- それぞれ自分の身近で大切な自然を保存すべき箇所と接しとらえ、将来をみすえて緑地を創出する
- 松代の緑地でまたツクシ狩りたい
- 子供たちに里山や生態学 生物多様性を実学する機会を多くつくる。
- さくらの森 流星台に新しく住む住人と金田在来の人が共に金田台を保全
- 子供たちにより多く里山に来てもらう 葛城里山
- 孫と一緒に里山を訪れる（親子三代で）
- それが実現するためにまず見学会など行う
- 筑波大の研究のわかりやすい公開
- 新しい植生に親しむ場づくり つくしを食べる会
- 谷田川で野鳥のキセツ 変化が見られる
- 広い私有緑地の公園化 保全 自然を残す
- 高崎市自然の森で学童の観察会が開かれてる
- 動ける人をふやす（若い人）
- 職場の参加が重要
- 現役世代からの参加
- 人の子供も自分の子供
- 稲荷川でコイののっこみがみられる
- 谷田川ぞいの春の野草の花がみられる
- おぐろくの森でキャンプ生活を楽しんでいる
- 牛久沼の水質が良くなりつつある
- 稲荷川沼で野鳥の観察会をしている
- 谷田川で子供達の魚つきをしている
- 神社はずっと残してほしい



## (2) グループごとの発表の概要・講評

### ① A 班

環境問題の変化、電気自動車の主流化など 2050 年の世界は現在と大きく変わっているかと思う。2050 年には日本の人口が約 3 分の 2 になると言われているが、つくば市の人口は今も増加傾向にあり、市街地化の加速が想定される。その際に相当面積の緑地が開発されるのではと懸念している。将来、市内の緑地が維持されていると良い。

自然を守っていくためには水辺をきれいにしていく必要がある。つくば市は蜜源植物が非常に少ないという情報があり、これから増やしていきたい。市内では芝生が生産されており、白い煙が上がっているように見えるほど多量の農薬が散布されている場面を見かける。私たち人間を含め生きものにどんな影響があるのかと不安に思う。産業のために必要なものだとは思いますが、共存・共栄のために気を付ける必要があるかと思う。

筑波山では特にきれいな水を守っていききたい。中央では自然の中で色々なものを体験できるコーナーがあれば良いと思う。荃崎地区には沢が多く存在しており、それらを手入れしながら守っていききたい。また、ネイチャーゲームを自然活動としてファミリーや子供向けに開催してはどうか。



### ② B 班

自身は学校にコウモリが飛んできたり自宅周辺でオオミズアオを見かけたり、自然に親しむ機会が多かった。未来の子供たちにも自然に慣れ親しんでほしいが、虫やカエル等、生きものが苦手な方が多いというのが現状かと思う。多くの方に自然に親しんでもらうためには、親世代の生きものへの苦手意識を解消する必要があり、親世代が生きものと触れ合うための取組が必要である。親世代に生きものへの苦手意識が無ければ子供にも苦手意識が生じないと考える。

自然環境や生物多様性への関心が低い方の意識を高めていかなければ、市全体の自然環境改善は難しい。解決策として公民館など地域の施設で出前ワークショップを実施してはどうか。地域の状況を把握し、課題を自分事として捉えていくよう意識を変えていかないと課題解決はしないだろう。自宅周辺の空き地の利用方法等、身近な課題を認識する必要があり、空き地を公園として活用するなど具体的な解決方法を市民で考えていく必要がある。

1950 年頃には筑波山周辺にウナギが生息していた名産品となっていたとのことである。市民全体の意識醸成を図って自然を守っていくことで、2050 年には市内にウナギを取り戻すという目標を設定した。つくばがウナギの有名な産地に戻るため、「ウナギをつくばに取り戻そうプロジェクト」を行うことも話にあった。





### ③ C班

2050年のつくば市の望ましい姿として、星がきれい、荃崎や谷田部の水系で水がきれいになっている、筑波山で多くのホテルが見られる等の意見が挙げられた。他にも、大池公園付近のため池群の水が泳げる・災害時に飲めるほどきれいな水になっている、樹木の手入れが行き届いている等の意見があった。自然の管理を継続していくためには、管理がレジヤーのように身近で楽しめるものとなる必要がある。楽しめるものとして市民参加の里山づくり実施できればと思う。樹木を覆っているクズを利用したリースやくず粉作りなども可能かと思う。生物多様性の保全活動が地域のビジネスとなり、それによって里地、緑地、森、農地などの管理主体が増え、また民有林・国有林の手入れも行き届いているとよい。つくば市全体が渡り鳥や色々な動植物の飛来地、生育生息地となり、その中には例えばカエルが多く生息しているケロケロードが出来ればと思う。生物多様性の恩恵を受けたビジネスができれば市民の意識も高まるのではないかと。



### ④ D班

グループワークの中で非常に多くの意見が挙げられた。つくばは自然が非常に豊かで筑波山、穴塚等の里山、牛久沼周辺、街中にも様々な生きものがいる。ヒバリ、キジ、カエル、ミツバチ等多く生きものが生息しており、ネットワークが形成されている。一方で人口増加や開発行為によって、自然が脅かされるのではないかとという危機感もある。これから緑のネットワークがより良いものになる必要がある。研究学園としての設計があり、それを今のつくばに即した形にして活用していくことがつくばらしさに繋がるのではないかと。



筑波山と都市部、市街地と里山の繋がりも大切であり、特に教育に力を入れるべきである。小さい子供たちが近所の公園で自然体験ができる、週末になったら市街地と旧集落で交流がある、といった将来を目指していきたい。専門家は多いが博物館がない、国定公園なのにビジターセンターがないなどの課題も解消して教育を一つの柱として取り組んでいく必要があると考える。

自然が残っている場所では人の立ち入りが制限されている場合もあるが、環境教育の場でもあるため積極的に活用していく必要がある。学校教育では自然とのふれあいをカリキュラムに加えてほしい。身近な場所でレクリエーションのような保全活動ができるようになればよい。

20年前、つくば市は子育てに適した良い町であったが、少しずつ悪くなっていると感じる。日常生活の中で子供たちが自然を感じられる環境が大切である。つくば市はスーパーサイエンスシティという側面もあり、自然（ネイチャー）と科学（サイエンス）の両方があることが魅力であり、そ

れを残していきたい。そのためには行政がリーダーシップをとって、企業や公的機関の緑地を増やす、街路樹を植え替えていくなどの取組を実施し、またその活動に市民も参画できるようになれば良いと思う。里山に実際に行ってみる等の体験型の学校カリキュラムを実現してほしい。

### ⑤ E 班

つくば市の生物多様性について、色々なお宝があるが、それを誰が守っていくのかという点が課題である。保全活動の担い手の高齢化が進んでおり、保全活動の仕組み等、根本的な部分の改善が必要である。ボランティア休暇や企業の協力より長期間保全に関わる等、仕組みの改革を行わなければ自然を守れない。筑波大学から赤塚公園にかけての地域に湿地や池が多く存在し、生物多様性の保全において重要な場所となっているのではないかという意見があった。この場所をグリーンベルトにしてはどうか。



荖崎地区では大規模な宅地開発はもう無く、緑地は残っていくかもしれないが、整備が行き届いていないため、土地所有者が太陽光パネル設置場所として土地の売却をするようになってきた。現在ボランティアでの整備を実施している。

生物多様性や自然への意識について市民の間で格差があると感じる。学校教育で里山を訪れて保全活動を体験できると良い。他班の発表でも教育の大切さについて言及されている。公民館や学校などの公共の場だけでなく、商業施設等で保全活動等について紹介する場を設けている。

### ⑥ F 班

2050年であれば今の子ども達が30代になっており、子供たちに生物多様性や保全活動に関心を持ってもらうということが重要である。そのためには今の親世代を引き込んでいく必要がある。今の保全活動主体が働きかけていく必要がある。親子を対象に里山や身近な生きもの紹介を行う等、出来ることから始めていければと思う。仕事で自然に親しむ時間を取れない方も多かもしれないが、現在は企業のSDGsや生物多様性への関わり方が変わってきているように思う。企業でも若い世代が生物多様性に興味を持てるよう取り組んでほしい。



つくば市ではNPOや大学等、様々な主体が活動を行っている。更に裾野を広げるために子供たちに働きかける場合、親世代の意識が重要である。働く世代がボトルネックになっているのではないかと思う。機会や興味があっても親から勉強しなさい、土を触ったらだめだという事を言われてしまうと、子供たちは自然に触れ合うことができない。働く世代が一番自然に触れる機会がないというのが現状であり、企業が自然環境保全等に関わることを趣味や余暇ではなく仕事として位置付けることが必要である。更にその活動をNPOがガイド等でサポートできると良い。企業が責任を持って場を設け、働く世代が中心となって上下の世代を繋ぐ必要がある。

## ⑦ 講評（上條教授より）

ワークショップへ参加いただき、また活発に議論いただきお礼申し上げます。参加者について、つくば市の自然環境に詳しく、また意識の高い方が多いことに驚いた。その中で自然環境や生物多様性を守るための活動について、担い手不足のために将来的に活動が途切れてしまうのではないかという話もあった。一方でそのような活動に参加したことがない方も本日のワークショップに参加されており、皆さんがそれを歓迎している様子が印象的であった。楽しそうにグループワークが行われている様子を見て、“自然”は楽しいものであるのだと強く感じた。これから更に楽しいものにしていければと思う。社会に向けてのアウトプットも重要だが、仲間内で楽しむことも大事だと思う。

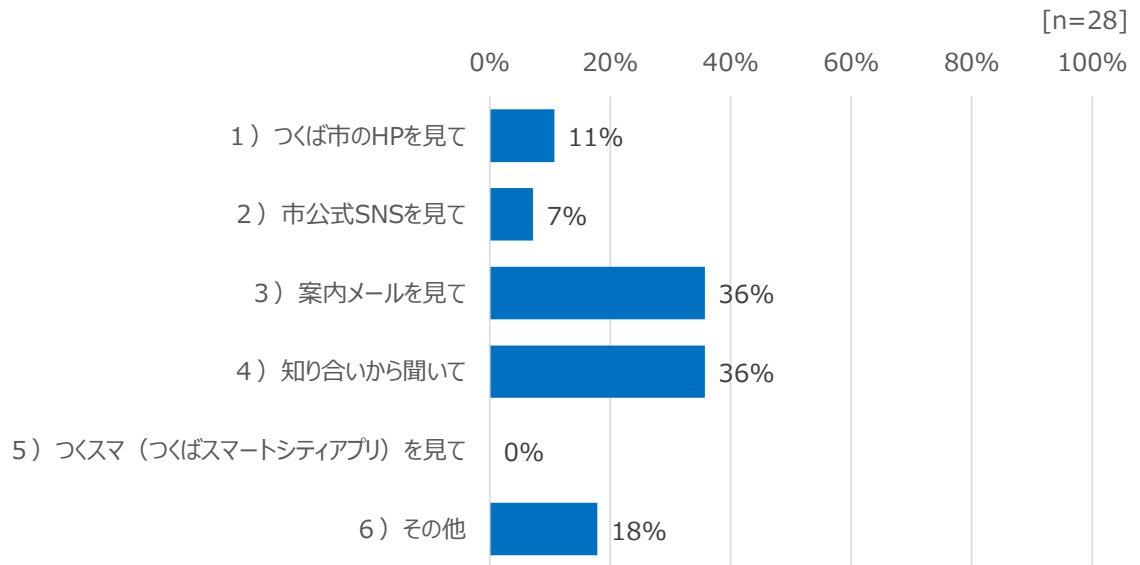
本日、近くで飲食イベントが開催されているが、生物多様性の取組についても同様のものを開催できればと思う。「生物多様性フェスタ」と題して、より参加しやすいイベントが開催されるとよいのではないか。個々の団体ごとの活動ではなく、関係者が集まってイベントを開催できればよいだろう。例えば午前中は、活動の裾野を広げるために、徹底的に子供向けのイベントを開催する。午後には意見交換会やフォーラムを開催する等の形式などが考えられる。懇親会のような場も重要であり、飲食等をしながら交流を行えばと思う。イベント資金については、市の予算や外部資金等を検討できるとよい。企業等の助力も得ながら、参加者で高め合っていける機会を設けてほしいと強く感じた。開催されるのであれば、自身も主体的に協力したい。



### (3) 参加者アンケート結果

#### ① 情報源について

あなたが、今回の講演会&ワークショップを知ったきっかけは何ですか。

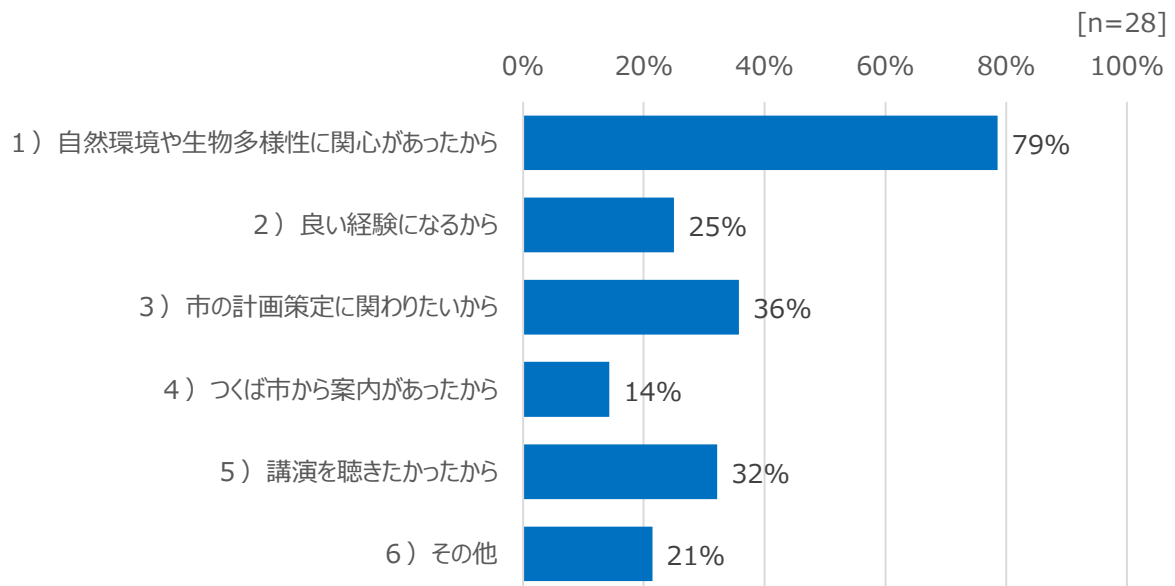


#### ■その他記述

- |                 |           |
|-----------------|-----------|
| ・つくば市との連携の一貫として | ・会社の業務として |
| ・市職員からのお声がけ     | ・市からの連絡   |

#### ② 参加の動機について

あなたが、今回の講演会&ワークショップに参加された理由について、該当する番号に○をつけてください。（複数選択可）



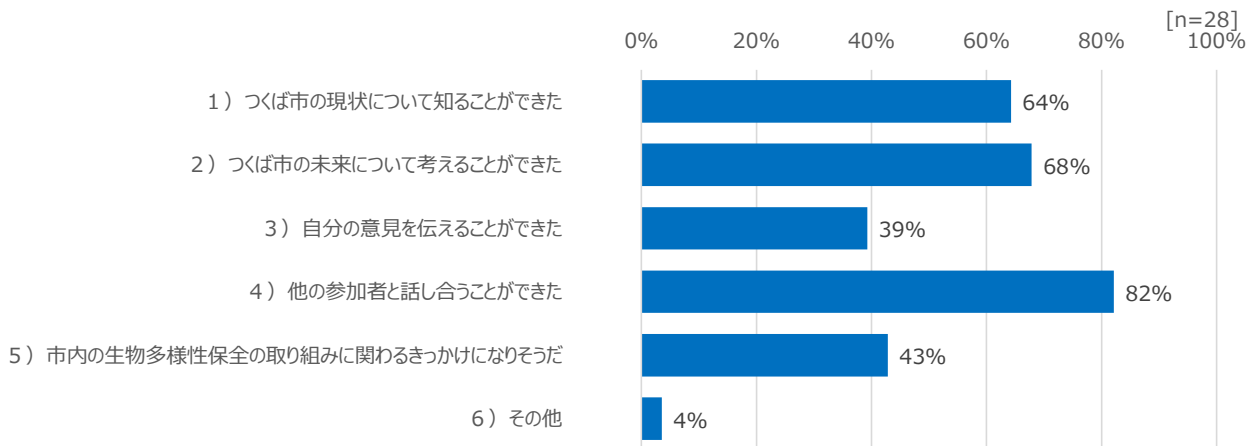
#### ■その他記述

- |                |                                     |
|----------------|-------------------------------------|
| ・ネットワーク作り      | ・大学受験に向けて積極的にこのような活動に参加したいと思っていたから。 |
| ・社の業務にどうとりくめるか | ・市が企画したセミナーに参加してみたかったので、未知の世界への挑戦   |
| ・会社の業務として      |                                     |
| ・対策の提案ができれば    |                                     |



### ③参加してよかったこと

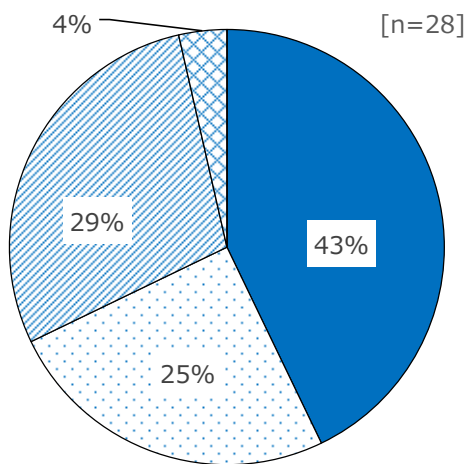
今回の講演会&ワークショップに参加してみて、よかったなと思えることはありましたか。



### ④参加の感想

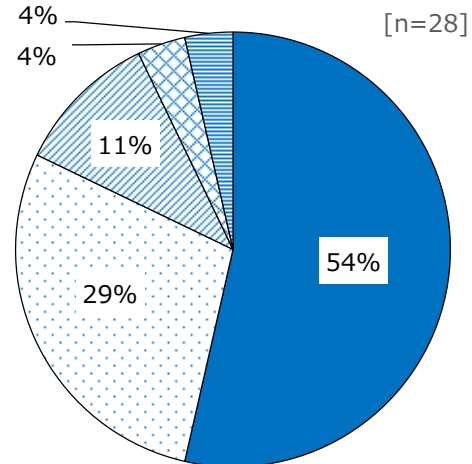
今回の講演会&ワークショップに参加して、どのように感じましたか。

#### 1) 全体の進め方



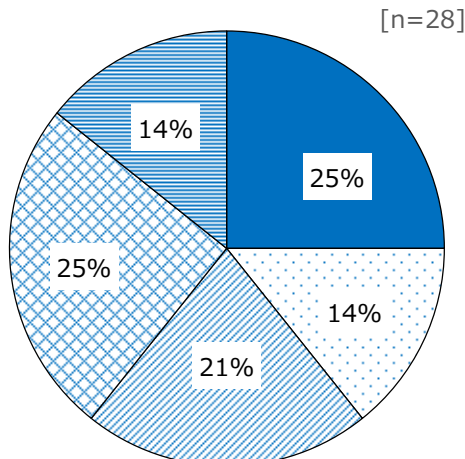
■良い □やや良い ▨普通 ▩やや悪い ■悪い

#### 2) グループ意見交換のしやすさ



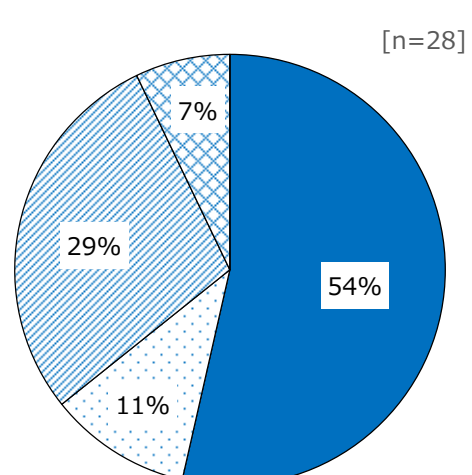
■良い □やや良い ▨普通 ▩やや難しい ■難しい

#### 3) 時間の長さ



■長い □やや長い ▨ちょうど良い ▩やや短い ■短い

#### 4) テーマ設定



■適切 □やや適切 ▨普通 ▩やや不適切 ■不適切

## ⑤今回の話し合いで発見したこと、気付いたことなど

今回話し合いを行ったテーマについて、最も“共感できた”“印象に残った”“ぜひ実現したい”と思ったことは何でしたか。また、時間等の都合で言えなかったこと、言い足りないことなどがあれば、以下にご自由にお書きください。

- つくば市の各緑地における生物多様性のポテンシャルの高さを実感しました。今回のワークショップを通じて、学ぶ楽しさを改めて実感したため、これからも知ることから始めていきたいと思えます。教育すること、継続することが全班共通しているところが印象的でした。
- ワークショップとしてはみなさんの熱量が強くて意見交換が難しいと感じました。その反面、もっと意見交換の場や時間を設けていくと良いと考えます。
- 子供だけでなく親世代もまきこんで多様性にとりくむ必要があると思いました。また参加したいです。街路樹を増やす時は蜜源植物でお願いします!!
- 生物多様性の保全は面的な土地利用のあり方に帰結していくように思っています。キーマンは地主でもある「筑波」市民（旧住民）かと思えます。今日はあまり居なかったようにお見受けしました。今後、「筑波」市民（旧住民）とコミュニケーションできる場を持てるとよいのではないかと思います。
- 「お宝マップ」の取扱い⇔市行政にどのように集約して行くのかな？
- 学校教育にぜひ組みこんでほしい！そして謎の保健体育論述コミュ英の時間を有効活用してほしい。あと会社が変わっていくっていうのはいいと思った!!じかんがない!!
- 「つくばの“お宝マップ”」：市内の各地についてくわしい方のお話をうかがうことができた。「2050年 つくば市の生物多様性の姿」:さまざまな立場の方のお話をうかがうことができてよかった。
- 子供らへの伝え方のくふうが必要。
- 2050年の姿、市民参加の里山管理の実現化、生物多様性がイベント・祭りとなりビジネス化・観光化されると良いです。
- ご出席者の方々の意識の高さ、又、知識量の多さに感銘を受けました。もっと時間を使って踏みこんだ議論が出来ればもっと良かったと思えます。
- 自然にふれる機会を作っていくことの大切さを共有できた。会社も自然の支え手になってくれる気運が出ておりすばらしい。
- 生物の多様性を知る機会を子供時代から体験できる場を作る。
- ”30×30”への道作りを期待したがそうはならなかったように感じる。
- 学園都市の背骨ともいえるつくば大から赤塚公園までのびる、国立研究所の緑地も含めたグリーンベルトはつくば市の宝です。
- グループ内で出た意見等、とても勉強になりました。
- これからもこの様なワークショップと市が中心になり、NPO等の協力でやっていってほしい。このようにすることで市民レベルで未来のつくばを考えていけたら良い。
- 関心を持った参加者であり、触発されることが多くありました。ありがとうございました。謝。実践計画展開も期待しています。（予算ども）生物多様性フェスタの実現に期待をしながら。
- まずやって見る。ここがスタート。
- 1H短いように感じました。
- 非常に良い刺激になりました。つくば市に住んで良かったです。